

地球のイキモノ 4コマ劇場



いざ、COP10へ!

“COP10”って知ってる?



世界中の国が「生物多様性」について話しあう会議なんだ。



今回の開催地は名古屋! 早速、現地レポート開始だ!



…まだ、やってなかった。



今年2010年は、国連が定めた「国際生物多様性年」です。10月には名古屋でCOP10と呼ばれる、生物多様性条約を結んだ国が集まる第10回締約国会議が開催されます。生物多様性条約とは、さまざまなイキモノを守り、その恵みを将来にわたって利用するために結ばれた国際条約のこと。COP10では、世界から193の国と地域が集まり、2002年の第6回締約国会議(COP6)で

採択された「2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」という『2010年目標』の達成状況のレポートや評価、新しい目標の設定などを行います。

そして、生物多様性条約に関する今後の方向性や国際的なルールづくりに関して議論するのです。世界から1万人近くが集まるとされているCOP10。それぞれの国々が抱える事情にも配慮した有意義な会議にできるか、議長国を務める日本に熱い期待が集まっています。



いのちの共生を、未来へ
COP10/MOP5
愛知-名古屋 2010

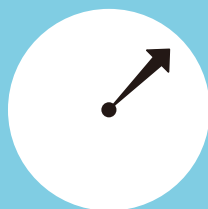
COP10のロゴマークは、日本の折り紙をモチーフに、人類とさまざまなイキモノとの共生を表現。中央にいる人間の親子は、豊かな生物多様性を将来に引き継いでいこうというメッセージが込められています。

なんでドードー?

絶滅したイキモノとして有名な「ドードー鳥」。その名前の由来って知ってる?



チクタクチクタク...



17世紀頃、ドードーは、マダガスカル沖の島でのんびりと暮らしていました。しかし、そこにある日、人間たちがやってきたのです。ドードーを困らせたのは、人間が鳥につれてきた動物たちでした。ペットのイヌ、家畜から逃げだしたブタ、荷物にもぐりこんでいたネズミが、卵やヒナを襲いました。そして、ドードーはあっという間に絶滅に追い込まれたのです。さらに、ドードーの絶滅後、カリヴァリアという木までもが激滅してしまいました。なぜなら、ドードーとカリヴァリアは運命共同体だったのです。カリヴァリアの種子は、とても固い殻に包まれていました。それをドードーが頑丈なくちばして取り除き、はじめて発芽することができました。開発や乱獲、外来種の持ち込みなど、人間の行動が「生物多様性」に与える影響はとても大きいのです。

では、答えをドードーくん本人から発表!



ドードーの名前の由来は、「ドードー」という鳴き声説。そして、ポルトガル語の「ドウオド」(まぬけという意味)から名付けられたという、2つの説があります。



ドードー: 1681年に絶滅。全長約1メートル、体重は20キロを超えた。翼と尾は退化し飛ぶことはできなかった。

今日は、風邪気味で声がでません。

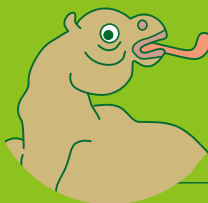

ガーーン!

知って得する、賢くなる! シロクマメ知識

ドードーの他にも、これまでに地球から姿を消したイキモノはたくさんいます。例えば、最強のキバを持っていたと言われる、サーベルタイガー。絶滅した原因は、氷河期の終わりとともに食料となる動物が減少したからだと考えられています。また、巨大ながら性格はおとなしかったメガテリウムは移住してきた人間たちの格好の獲物となり、絶滅したと言われています。現在は、第6の大絶滅時代とされ、世界中で7,702種の動物、8,509種の植物が絶滅の危機にあります。そして、絶滅のスピードはますます加速しているのです。

サーベルタイガー: 約1万年前に絶滅。最大24cmのキバが発見されている。

メガテリウム: 約1万年前に絶滅。体長は6mにも及ぶ。



* COP10は、10月開催です。